

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった、心身ともに健康な中学生を育成する。

「生徒行動指針」 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	義務教育である小中学校で一番に身に付けさせなければならないことは『生きる力』の育成である。大海原を自らの足で歩む力である。そのために必要な体験の場を、意図的・計画的に提供し、望ましい集団活動を通して自己及び集団の向上を図る意識を育む。また、そのために必要な基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる学校を目指す。
○児童・生徒像	○病気に負けない心身ともに健やかな体を身に付けた生徒 ○習得した知識を実生活に活かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を地域や家族、学校・学年・学級のために進んで役立てようとする生徒
○教師像	○生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導く教師 ○組織として迅速に動くことのできる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- (1) 生徒は元気にあいさつができ、落ち着いた生活を送っている。
- (2) 「ハイオアシス運動」をはじめとした生徒会活動が、良い意味で伝統を継承し、実践されている。
- (3) どの生徒も授業に真剣に取り組み、何よりも授業が楽しいと言っている。
- (4) コロナ禍にあっても、学校行事を工夫して行い、熱心に取り組み、達成感も高い。

2 前年度の成果

- (1) 区学力調査において、3科全体の達成率が61.8%から63.7%と向上した。
- (2) 「SAKURARoom」、「スマイルRoom」を開設し、個に応じた支援を実践した。
- (3) 開かれた学校づくり協議会主催の「サタデースクール」が円滑に運営され、自学自習の場を提供できた。
- (4) 地域浄化活動など地域・家庭・学校が連携して行うボランティア活動が伝統として継承され、生徒に地域の一員としての自覚を生みだしている。

3 前年度の課題

- (1) コロナ禍で授業進度がやや速かったようで、定着に不十分なところが見られ、区学力調査の結果にも表れている。
- (2) 学習した知識が、学力調査や定期考査までで終わってしまい、「知の喪失」に陥っている。
- (3) 集団に適応できず、教室に入れられない生徒が減ってはいるものの、ゼロにはなっていない。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	○	○
2	特別活動の充実とキャリア教育の推進	—	○	◎	◎	○
3	不登校・不適応対応	○	◎	◎	◎	○
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
各種学力調査の結果向上と家庭学習の定着	令和3年度目標通過率 65.0%	63.9%	・学年進行による通過率の低下が改善されない。 ・生徒のつまずきに応じた一層の個別支援体制の確立が課題。	△

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教科	通年	【取組内容】 指導案の書式を統一し、導入5分・展開35分・振り返り(まとめ)10分の授業展開を全ての授業で実践する。 【ねらい・目的】 各授業における生徒の学びの確実な定着を図る。	生徒による授業アンケート hyper-QUの学習意欲	生徒による授業アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目の肯定的回答が90%以上 Hyper-QUの学習意欲アンケートにおける「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」の項目の肯定的回答が70%以上	授業アンケートによる「授業がわかりやすい」の項目の肯定的回答 90.2% Hyper-QUの「学習に自分から取り組んでいる」の項目の肯定的回答 69.0%	・授業が分かりやすいと回答している生徒は学年が上がるほど高く、1年が低い。 ・QUの結果では、逆に1年が高く2年が低い。 【課題】 1年において、学習意欲は高いが、中学校の授業に慣れず、ギャップを感じていると思われる。	○

2 継続	家庭学習の習慣化	全教科	通年	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートを毎日提出 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の確実な定着 ・学習の質の向上 	生徒による授業アンケート	提出率 90%以上	60.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートの提出ということがマナー化し、学習の質の向上を図ることができなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師、生徒ともあらためて家庭学習ノートの意義を確認し、提出することだけでなく内容の質の向上を図らせる。 	●
3 継続	JUT	国語 社会 数学 理科 英語	通年	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に30分間の補充学習 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・得点力の向上 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のつまずきを解消 ・習得した知識の活用力向上 	区学力調査 都学力調査	<p>区学力調査正答率</p> <p>国語 60%以上 数学 55%以上 英語 50%以上</p> <p>都学力調査 全教科において、区平均以上</p>	<p>区到達度調査正答率</p> <p>国語 70.2% 数学 53.6% 英語 54.8%</p> <p>都学力調査については、各教科の調査が行われなくなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の正答率が低い。 <p>【課題】</p> <p>つまずきのある生徒に対する放課後等の補習は行うことができたが、学校全体で取組内容等に対する働きかけに工夫することが課題。</p>	○
4 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国数英の3教科で基礎的な知識の定着を図る <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の喚起 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功体験の積み上げ ・自己肯定感の高揚 	3科の学力コンテスト	3教科とも1回目での合格率85%以上	<p>国語 95.8% 数学 79.4% 英語 78.6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は学習意欲を喚起できた。 ・1回目で合格点が取れなかった生徒も、その後の補習で最終的には合格している。 <p>【課題】</p> <p>学習につまずきのある生徒に対する事前の取り組み期間における支援を工夫する必要がある。</p>	△

5 継続	サタデー スクール	全教科	通年	【取組内容】 土曜授業のない土曜日に 自学自習による補習 【ねらい・目的】 自学自習の習慣を身に付 けることで家庭学習の定 着を図る	サタデースク ール参加登録 者数と出席状 況	生徒登録者数 30名以上 年間延べ参加 人数150人 以上	生徒登録者17名 参加延べ人数 50名	・新型コロナ感染防 止を理由に参加登録 する生徒が少なかっ た。 ・開かれた学校づく り協議会のメンバー はコロナ禍にあって もよく取り組んでく れた。	○
---------	--------------	-----	----	--	---------------------------------	---	-------------------------------	--	---

重点的な取組事項－2		特別活動の充実とキャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感と自己有用感の高揚を図り将来に希望をもつ		Hyper-Q Uと区学力調査の学習意識調査	指導力向上中核校として「キャリア教育」の研究に取り組んできた成果が少しずつ現れている。	学級活動の充実により自己肯定感と自己有用感が高まった。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の自尊感情を高める指導の徹底	hyper-Q Uにおける非承認群20%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の学級経営力の向上 ・各学年で統一した学級活動の実践 	Hyper-Q Uにおける非承認群13.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとに全学級で統一された学級活動は行えている。 ・生徒の「できた」を認める指導を徹底できた 	◎
自己有用感の高揚	hyper-Q Uにおける「学級との関係」の設問16の肯定的回答が65%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動の活性化による役割の自覚 ・生徒相互の良さを認める活動の充実 	Hyper-Q Uにおける「学級との関係」の設問16の肯定的回答63.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・学級に貢献できたという意識が高まっている。 	○
将来への希望	区学力調査の学習意識調査において、「将来の夢がある」という回答が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動においてキャリア発達を促す教育の実践 	区学力調査の学習意識調査における「将来の夢がある」69.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢デザインシート」を活用した学級活動が、生徒の将来像のイメージ化に役立っている 	○

重点的な取組事項－3		不登校・不適応対応			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校出現率の減少		不登校出現率 4. 5 %以下	不登校出現率 4. 7 5 %	目標値より若干高いが不登校不適応対応としての目標は概ね達成できた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気作り	hyper-Q Uにおける学級満足度 7 0 %以上	小中連携研究を通して、9年間を見通した学級活動の充実を図り、学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級・学年で生徒の活躍する場面を設定し、生徒の自己肯定感と自己有用感を高められる学級経営を全教員ができるようにする。その際、特定の手法にとらわれず、各教員のスキルや学年・学級の実態に即した学級活動を工夫する。	Hyper-Q Uにおける学級満足度 5 0. 6 %	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと満足度 70%というのは希望を込めた非常に高い数値で、学級満足度は国・区より高い。 【課題】 ・小学校との連携を一層充実させ、不登校児童・生徒の情報を共有し、きちんと引き継ぐとともに、協働して不登校の縮減に努める 	○
不登校生徒への対応の強化	不登校出現率 4. 5 %以下	SC・SSWを活用し、必要な関係機関との連携を図りつつ、生徒の教室復帰を目指す。	不登校出現率 4. 7 5 %	<ul style="list-style-type: none"> ・SSW、SCは十分機能し、教室復帰を果たした生徒が現れた。 ・スマイルルームにおいて、教室には入れない生徒への学習支援を校内でも行えた。 	○
全校体制での不登校・不適応生徒への支援	特別支援委員会年 3 5 回以上開催	毎週木曜日の 2 校時に特別支援委員会を実施し、不登校・不適応生徒の情報の共有化を図る。支援を必要とする生徒への対応は全校体制で行う。	毎週木曜日の特別支援委員会年 4 0 回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会は毎週実施した。 ・不登校生徒の情報共有ができ速やかな対応ができた。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【課題】(年度末の到達度調査から)

- ・1年生では、国語の正答率が71.1%、数学の正答率が62.3%で、いずれの区平均より高かった。一方で、英語の正答率は53.0%で、区平均より低かった。
- ・2年生では、国語の正答率が69.3%、数学の正答率が44.8%、英語の正答率が56.5%で、いずれも区平均より低く、数学は目標値にも達していない。

【解決の方向性】

- ・いずれの学年、いずれの教科においても、区の学力調査や全国の調査の分析を徹底し、習熟が不十分な単元は授業で、習熟が遅れている生徒には放課後補習(JUT)でしっかり学び直させる。
- ・指導力向上中核校の研究として、各教科の授業改善を一層進め、授業力の向上に全教員で努める。
- ・各学年の教科・教科外の全教育活動の全巻指導計画を可視化し、生徒に何を学ぶのかを明確に意識させる。
- ・放課後補習(JUT)では、帝京科学大学教職コースの学生を学生インターンとして採用し、活用する。その際、進路指導部を中心にこれまで以上に組織で対応し、本校教員が中心となって生徒個人個人の習熟の程度にあわせたカリキュラムを考え、学生の支援を借りつつ指導にあたる。
- ・2年生英語の補習では、JUTの際に新出単語や新出文法を繰り返し学習させ定着を図る。

【総括】

本校の多くの生徒は、「授業がわかる」、「授業が楽しい」と感じている。一方で到達度調査を見ると学習の定着が十分であるとは言い難い。新型コロナウイルス感染拡大により、様々な学習活動が制約を受け、ペアワークやグループワークを通して学習の定着や学習内容をより深く理解させることが困難であった。教科によっては正答率が極端に低い結果となり、それぞれの教科において更なる結果の分析を行い、習熟の程度が低い部分においては、授業・JUT・個別指導を通して学習の定着を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒は様々な場面で我慢を強いられていますが、そのような中でも多くの生徒が「学校が楽しい」と言っていて通ってきております。授業についても、「たのしい」、「わかる」という生徒が9割を超えています。しかし、生徒のそのような感覚が必ずしも学習内容の定着につながっていない部分があることは否めません。教職員一同、生徒の学習の習熟の程度をしっかりと把握し、学習した内容がきちんと身に付くよう、更なる授業改善やJUT、個別指導に努めてまいります。また行事においては、コロナ禍でも極力頃名前の実施形態に戻していこうと考えています。いきなり全てが元通り、というわけにはいきませんが、新型コロナウイルス感染状況を見据えつつ教育活動を行ってまいります。また、区教委とも協議しつつ、可能な限り本校教育活動を公開してまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしく申し上げます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により様々な教育活動が制約を受ける中、感染拡大防止を図りつつ可能な限り教育活動を生徒に提供してきた。生徒もよくそれに応え、非常に素晴らしい姿を見せてくれた。特に今年度は、修学旅行、魚沼自然教室、1・2年の校外学習が実施できたことは大きい。今後の新型コロナウイルス感染状況を見極めつつ、教育活動の正常化に努めていく。

足立区教育委員会指導力向上中核校の研究も次年度で3年目となる。キャリア教育の推進と特別活動の充実に加え、全ての教育活動をキャリア教育の視点で見直し、変化の激しい社会を生き抜く力を生徒に身に付けるべく、全教員で授業改善に取り組み学級を生徒にとって居心地が良く安心して学べる場にするよう研鑽に励んでいる。特に今年度は、これまでの研究を実践に移す年と捉え、各教科の指導の改善にも取り組んでいく